

# 生徒の自己肯定感と目的意識の醸成に向けた組織的協働の展開

鳴門教育大学大学院 高度学校教育実践専攻 指導教官 久我 直人  
高知県立宿毛高等学校 教諭 岡村 和枝

## 1 はじめに

### (1) 課題設定の理由

#### ア A校の概要と課題

A校は、全日制総合学科高校である。1年次は共通科目を履修し、2年次から「人文科学」「自然科学」「福祉文化」「情報ビジネス」「スポーツ」の5系列に分かれ、普通科目と専門科目を学習する。1、2年生は各3クラス、3年生は4クラスの合計10クラスとなっている。生徒数242人、教職員数55人である（平成30年4月現在）。

#### イ A校の課題

生徒・教員対象のアンケートを中心に、生徒のよさと課題を把握するため、聞き取り調査やアンケートによる学校アセスメントを実施した。表1は抽出された課題を分類したものである。

表1 A校の課題

生徒	学習習慣，計画性が弱い
	自分への信頼に格差がある
	目的意識が弱い
教員	具体的な学び方指導の必要性
	生徒の成長認知の低さ
	個業性

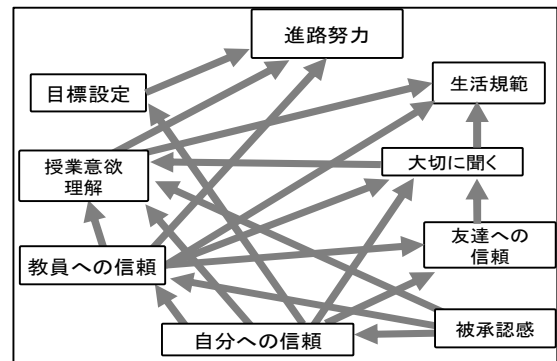


図1 生徒の意識と行動の構造図

生徒の行動面の課題と内面の課題の構造的な関係を理解するために、生徒アンケートの結果を共分散構造分析ソフト Amos で分析し、「生徒の意識と行動の構造」を可視化して、生徒の行動と内面の関連性を導き出した（図1）。

### (2) 課題の共有と組織的省察

平成30年2月2日に全教職員を対象に校内研修を実施し、アンケートに基づき、A校の生徒の実態について組織的省察を行い、学校の教育課題を共有した。また、今年度の取組を学年での指導を振り返りながら省察を行い、学年間で課題を共有するとともに、その解決に向けた取り組みを検討することにより、次年度の教育活動について方向づけを行うことを目的とした。組織的省察により出された意見を集約したものを図2に示す。

効果があった取り組み	課題	次年度へ
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援員補習での対象生徒の入れ替え→学習の動機に繋がる</li> <li>生徒が主体の授業形態</li> <li>学習ノートを活用しての学習時間の確保</li> <li>指示されたことへの取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着</li> <li>学習ノートの活用法</li> <li>学習方法の未確立</li> <li>目標意識の脆弱さ</li> <li>補習(定期考査前)への参加率</li> <li>自己理解不足</li> <li>一斉指導での指示が通らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習方法の初期指導(ノートの取り方、各教科の勉強の仕方、学習ノート等)</li> <li>学習と将来設計の繋がりを意識させる(目標づくり)</li> <li>規範指導(人の話を聞く)</li> <li>スタディサブリの活用</li> <li>学習ノートの活用方法(自律的な学習ノート作り)</li> <li>勇気づけ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い進路情報の提供(産社)</li> <li>目標設定の振り返り(産社)</li> <li>進路ガイダンス内容の変更</li> <li>自照を通しての進路意識の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性の低さ(自己意識の弱さ)</li> <li>進路意識の低さ</li> <li>目的意識の脆弱さ</li> <li>進路に関する情報不足</li> <li>進路に関する情報収集力不足(本を讀まない等)</li> <li>競争心の欠如</li> <li>1年次からの系統だった進路指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初期指導の見直し(目標設定、進路研究等)</li> <li>ホーム主任との連携</li> <li>個別指導の充実(個人面談、進路面談等)</li> <li>資格取得に向けた取り組み(学びと将来の設計)</li> <li>自照の大切さを意識させる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>素直で真面目(指示されたことへの取り組み)</li> <li>学年、学校全体での情報共有や支援</li> <li>生活・規範ルールを守ろうとする意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示されたことしかできない(主体性の低さ)</li> <li>指導の定着不足</li> <li>社会性の弱さ(提出物、人の話を聞く、場に応じた言葉遣い等)</li> <li>基本的な生活習慣の未確立</li> <li>全教職員での統一した指導</li> <li>保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範指導の徹底(場に応じた適切な言葉遣い、提出物、約束を守る等)</li> <li>生徒主体の取り組み(自律・自治活動)</li> <li>課題を抱える生徒への勇気づけ、自己肯定に焦点を当てた取り組み</li> </ul>

図2 組織的省察の集約

## 2 実践研究の目的と課題

### (1) 実践研究の目的

学校アセスメントを通して明確になった学校課題は、個別の課題ではなく、それぞれが関連したものである。本実践研究は、これらの課題を解決するため、生徒が抱える教育課題の解決のための取組を、組織的に展開することを通して、生徒の変容と教員の組織化を図ることを目的とした。

### (2) 実践研究の課題

本実践研究の目的を達成するため、次の課題を設定した。

- ① A校の教育課題の可視化
- ② 教員の組織化と教育改善のためのプログラム構築
- ③ 構築したプログラムの具体的な実践
- ④ プログラムの効果の検証

### (3) 実践研究の具体的な取組

A校生徒の意識と行動の構造図(図1)を基に、具体的な取組を策定した(図3)。

価値づけ、勇気づけは、自己肯定感を向上させるために行う取組であり、既存の取組と合わせて、ポートフォリオシート(キャリア・パスポート)の作成、ポートフォリオシートのコメント欄等を活用したボイスシャワーや面談を計画した。夢・目標づくりは、目的意識を醸成させるための取組で、ポートフォリオの活用(目標設定シート、振り返りシート)を導入することとした。学びづくりは、自律的な学びを促進するための取組で、A校において以前から導入されている授業ガイダンス、学習ノートの活用、学習会等が、生活・規範づくりに関する取組としては、「人の話を聞く指導」が今年度も設定された。

### (4) 組織マネジメントの展開枠組

本実践研究を実施するにあたり、久我(2013)「教師の主体的統合モデル」を基に、実践研究における組織マネジメントの展開の枠組を作成した(図4)。

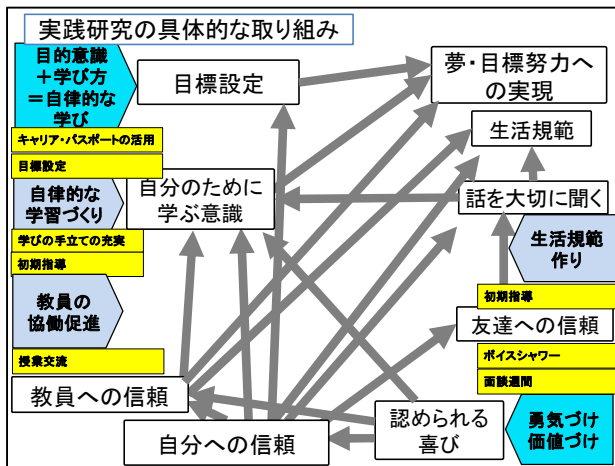


図3 課題解決に向けた取組図

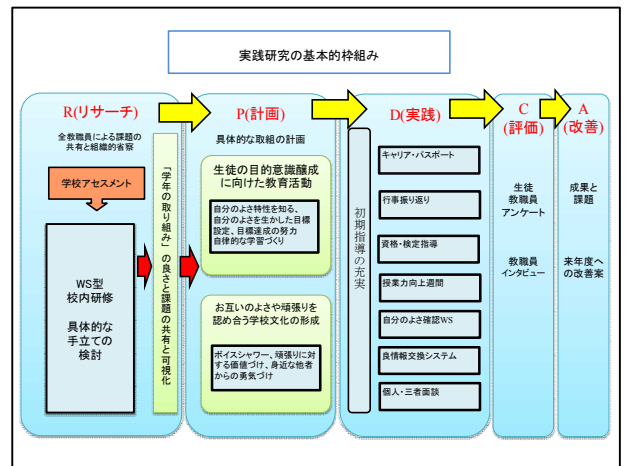


図4 実践研究における展開の枠組み

### 3 研究内容

#### (1) 実践研究の実施

##### ア Research 期

平成30年2月2日に全教員を対象にした校内研修を実施した。内容は組織的省察を促す久我教授の講演の後、11月に実施した学校アセスメントデータの分析結果報告を行い、全教員で共有した。校内研修の後半には、組織的省察（ワークショップ型研修）を実施した。ワークショップ型研修では、生徒の実態を学年での取組を振り返りながら、「学習」、「生活」、「進路」に分けたそれぞれの取組のよさと課題を付箋に記入し、グループ内で意見交換を行い、学校課題に基づいた教育活動づくりのアイデアが出された。また、意見交換後には、出された意見を分類し、よさや課題の焦点化を行った。研修の最後には、各グループの代表者が順にそれぞれのグループでまとめた内容の報告をし、全教職員で共有した。成果物の抜粋を図5に示す。

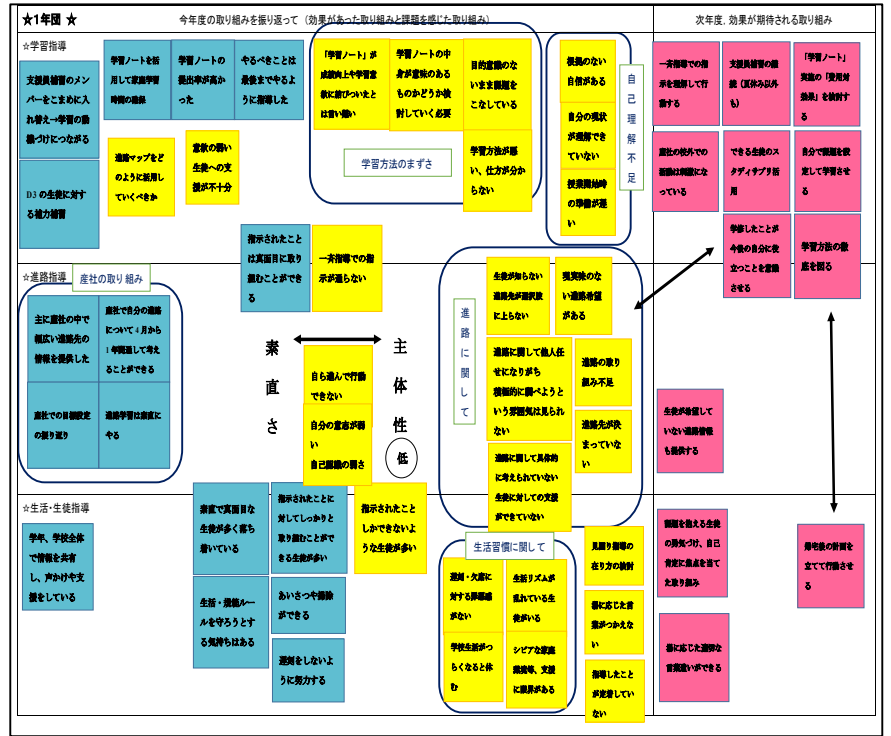


図5 成果物（抜粋）

まとめた内容の報告をし、全教職員で共有した。成果物の抜粋を図5に示す。

##### イ Plan 期

組織的省察の結果を踏まえ、A校の教育課題に適合した具体的な取組が決定した。その取組を組織的に展開するために、1年間の教育活動を5つのステージに区切り、ストーリー性を持たせ、何に集中して取り組むかを明確にした。(図6)

##### ウ Do 期

#### 1) 生活規範づくりに関する取組

##### 【初期指導：生活規範づくり】

A校における生活規範づくり及び、目的意識をもった高校生活に向けて初期指導を実施し、全ての学年で学びと生活についての確認がされた。各学年主任や生徒指導部長による話の聞き方、高校生として守るべきルール、場に応じた言葉遣い、学校での規則、身だしなみ等に関しての話により、高校生としての心構えと規範意識が高まったととらえられた。

##### 【聞く指導】

高校生活に向けて、「相手の話を聞く」こと、「話をする姿勢」等に対しての徹底を実施した。初期指導以降にも、集会時等の各場面での聞き方に関しての徹底が行われ、規範意識の高まりにつながったととらえられた。

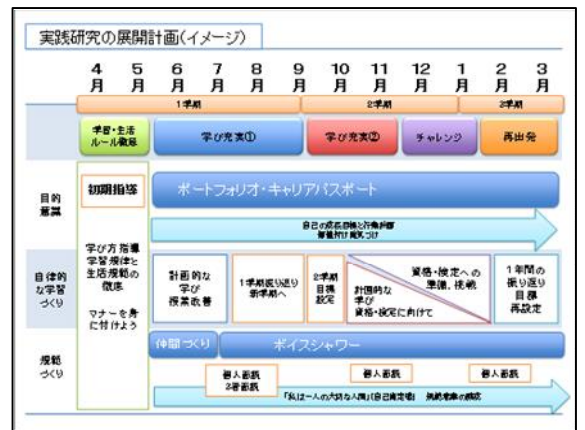


図6 実践研究の展開イメージ

## 2) 自律的な学びに関する取組

### 【初期指導：学びづくり】

学びの手立ての充実に向けて、学習づくりに関する初期指導や授業ガイダンスが実施された。各学年主任や進路指導部長からの「学びと将来設計や各種資格検定取得」に関しての話等により、学ぶことによって自己の可能性を広げ、社会とのつながりが強まることが確認された。また、授業ガイダンス等によって学習面の規範も確認された。

### 【振り返りシートの活用】

これまで行っていた振り返りを、単に感想を書くだけでなく、自分自身の現状把握や、学びとつながるように、項目ごとに分けたシート(図7)に変更をし、全学年で振り返りの時間を設定することとした。作成にあたっては、担当教員と原案を作成し、学年会等での意見を聞きながら修正等を行い、進めていくこととして実施した。

振り返りシートからは、「これから少しずつ努力をし、自分の進路につなげられるように頑張りたい。そして、今日から実践していきたい」等という感想が出され、学びを意識した振り返り及び、学習意欲の向上につながったととらえられた。また、同じ項目で繰り返し振り返りを行うことで、記述内容から徐々に変容が見える生徒の姿も確認された。

図7 振り返りシート①

## 3) 目標・学習づくりに関する取組

### 【目標設定】

既存の取組である「目標パネル」の作成や、今年度から新たに導入した、生徒が自分自身の現状把握、それまでの自分の行動の振り返り、そして、次につながる目標を設定し、振り返ることができるシート(図8)の活用を開始した。シートでは、短期、中期、長期の目標に対しての計画的な学習を促すために、各学期の目標を立て、それに向かって具体的に何をすべきかを生徒自身が考え行動し、確認できるようにした。また、各学期の目標に対しての自己評価や再設定だけではなく、学習面、生活面や学校行事、将来に向けて等の項目において、「頑張ったこと」や「できるようになったこと」を記入し、自己理解や価値付けも図った。シートからは、前学期を振り返り、新学期に向けての具体的な取組を考える生徒の姿が見られた。記入したシートは、三者面談等でも利用され、目的意識の醸成につながったととらえられた。また、定期試験を振り返る記述からは、計画的な学習習慣が促され、学習意欲、理解の向上につながってきていることがとらえられた。

図8 振り返りシート②

#### 4) 勇気づけに関する取組

##### 【生徒へメッセージ】

行事等での生徒の頑張りを評価し、勇気づけにつながる様に、今年度から、「先生からのメッセージ」の記入欄を設けた振り返りシートを作成した。各ホーム担任が生徒の振り返り等に対するコメントの記入を行い生徒に返すこととし、生徒に対する勇気づけを行った。

また年度途中で、キャリア・パスポート及びキャリアカウンセリングについての校内研修も実施され、研修後には担当教員で情報交換も行った。そして、学年会等で、より効果的なメッセージの返し方等に関する情報交換の場を設定し、情報交換及び、情報共有を行った。メッセージとして、教員側の意見や評価ではなく、生徒の気持ちを受け止め、次の思考にも生徒が進んでいくようなコメント、そして、「普段から見ている」ということも伝えていくこと、また、生徒の頑張りの感想に対して、コメントだけではなく、言葉がけを行っていくことが確認され、実行された。シートの返却時には、どの生徒もメッセージを確認している様子や、友達に見せている生徒の姿も見られ、生徒の被受容感を高める一因となったととらえられた。生徒へのメッセージを図9、図10に示す。

また、生徒が作成したシートを活用した面談も行われ、日常的な勇気づけにもつながっている。これらのシートは、各学年別に用意されたキャリア・パスポートファイルに綴じ、3年間を通しての学びの蓄積をしていくこととした。そして、長期休業中には職員室に置き、生徒の頑張りを全教員で共有できるようにした。職員室への設置により、多面的な勇気づけにも活用された。

#### 5) 教員の協働促進に関する取組

##### 【公開授業週間による協働促進】

相互の授業参観が教務部によって実施された。参観者は授業者のよかったところを振り返りシートに記入し、それを担当者が授業者にフィードバックをし、よさや課題は職員会議で共有された。その結果、授業改善だけでなく、協働性の高まりも感じられた。

## 4 まとめ

### (1) 生徒の変容

本実践研究の結果、夢・目標への努力、学習意欲・理解、規範意識、自分への信頼の各項目で変容傾向が確認された。

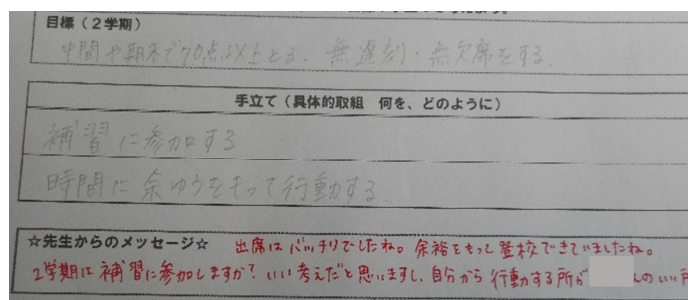
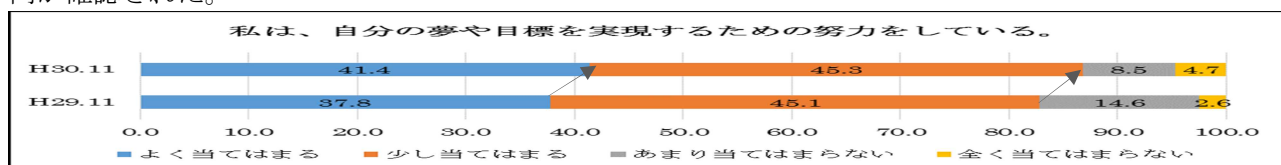


図9 生徒へのメッセージ①

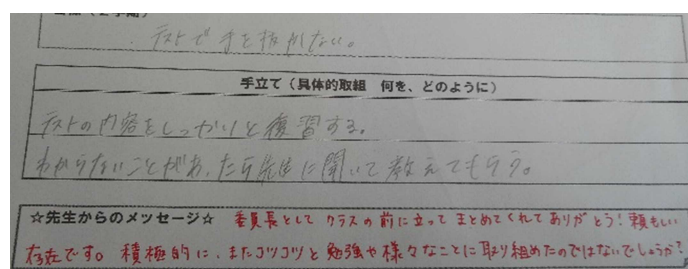
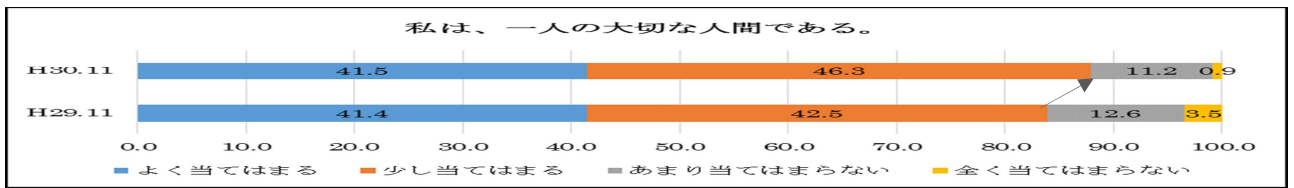
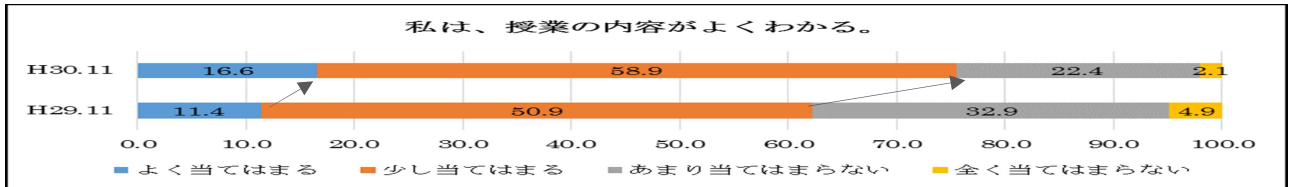
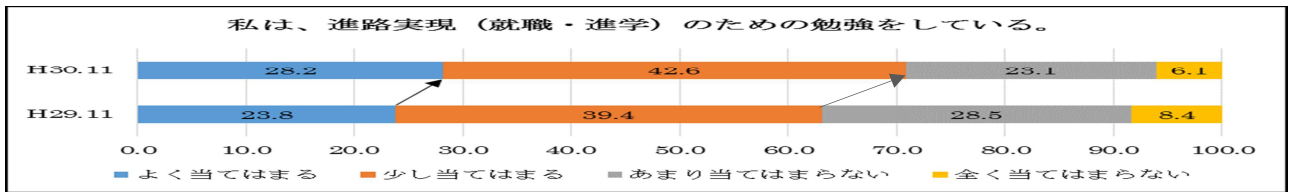


図10 生徒へのメッセージ②

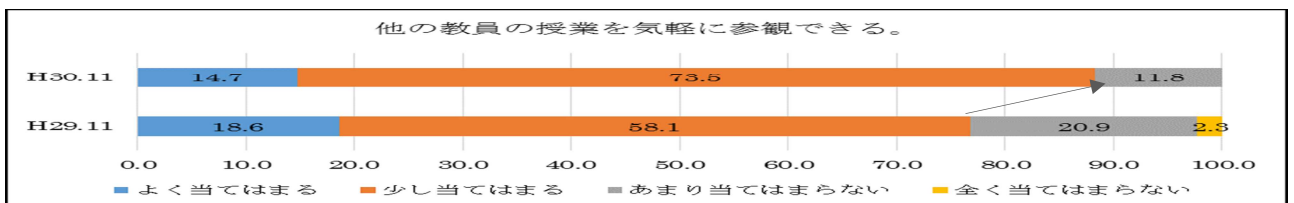
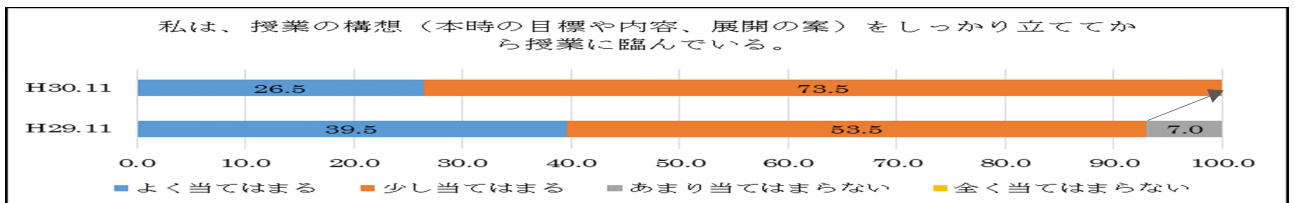


図11 キャリア・パスポートファイル



## (2) 教員の変容

教員は、生徒の学習意欲・理解につながる学習指導・支援、生徒の被受容感につながる生徒への価値づけの向上とともに、教員の協働性に変容傾向が見られた（図7）。



本実践研究の成果として、①生徒の「自分への信頼」の高まったこと。②生徒の学習意欲、学習理解の向上が見られたこと。③生徒の目的意識の醸成が確認できたこと。④生徒の規範意識の高まりが見られたこと。⑤教員の組織化が促進されたこと。の5点があげられる。

本実践研究では、生徒の意識と行動の構造を明らかにし、目的意識の脆弱さ、学習習慣の欠如、自分への信頼の格差に焦点をあて、組織的な取組を展開した。生徒の諸問題（行動レベル）だけに注目して、その解決を目指すのではなく、生徒の意識（内面レベル）に焦点をあて、改善策を生成することの有効性を示したと言える。本実践研究の教育改善プログラムは汎用性が高く、様々な教育課題を抱える学校で有効に機能すると考えられる。

## 参考文献

- ディール・H・シャンク, バリー・J・ジーマン (2009) 『自己調整学習と動機づけ』 北大路書房
- 岩井俊憲 (2011) 『勇気づけの心理学 増補・改訂版』 金子書房
- 川村誠司 (2017) 「目的意識の醸成を目指した組織的な取組の開発的研究—自分への信頼を高め自律的な学びを生み出す仕組みの構築を通して—」 『鳴門教育大学最終成果報告書』
- 久我直人 (2011) 「教師の組織的省察に基づく教育改善プログラムの開発的研究—『教師の主体的統合モデル』の基本理論—」 『兵庫教育大学 教育実践学論集第12号』
- 久我直人 (2013) 「教師の組織的省察に基づく教育改善プログラムの理論と実践—『教師の主体的統合モデル』における組織的教育意思形成過程の展開とその効果—」 『兵庫教育大学 教育実践学論集第14号』
- 久我直人 (2014) 「中学生の意識と行動の構造に適合した教育改善プログラムの開発的研究—教育再生のシナリオの理論と実践—」 『兵庫教育大学 教育実践学論集第15号』
- 久我直人 (2014) 『よりよい「学級経営」に大切なこと こどもの成長を促し、まとまりのある学級づくりをすすめる優れた教師の省察力 2014版』 ふくろう出版
- 久我直人 (2015) 『教育再生のシナリオの理論と実践—確かな学力を育み、いじめ・不登校を低減する「効果のある指導」の組織的展開とその効果』 現代図書
- 前田直彦 (2017) 「自律的な学びを支援する教育改善プログラムの開発と展開」 『鳴門教育大学最終成果報告書』
- 村川雅弘 (2012) 『「ワークショップ型校内研修」充実化・活性化のための戦略プラン43』 教育開発研究所
- 村川雅弘, 田村知子, 西留安雄, 野口徹 (2013) 『「カリマネ」で学校はここまでかわる』 ぎょうせい
- 村川雅弘 (2016) 『ワークショップ型教員研修 はじめの一步』 教育開発研究所
- 有澤拓也 (2014) 「学校の課題解決に向けた組織的協働の展開—生徒の目的意識醸成を軸に—」 『鳴門教育大学最終成果報告書』
- 寺田心 (2016) 「生徒の自己肯定感と目的意識の醸成に向けた組織的な取り組みの展開—生徒の意識と行動の構造に適合した取り組みを通して—」 『鳴門教育大学最終成果報告書』